令和５年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立第五中学校
校長　石井　秀生

１　学校教育目標

○ 基礎基本を身につけ、自ら進んで学ぶ生徒　　○ 心身ともに健康で、思いやりのある生徒　　○ お互いに協力しあい、ともに向上する生徒

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・生徒一人一人が明るく元気に活動し、個性や能力を伸長できる学校 ・教職員が信頼し合い高め合うことにより、組織的に機能する学校 ・保護者や地域から信頼される学校
○児童・生徒像	・文武両道を目指し、何事にも意欲的に取り組む生徒 ・人の気持ちを考えることができ、感性豊かで豊かな人間性を磨く生徒 ・自らの生き方に自信をもち、自己実現に向けて日々努力する生徒
○教師像	・一人一人の生徒を人間として尊重し、良さや可能性を引き出す教師 ・指導力向上を目指し、常に自己研鑽に励む教師 ・保護者や地域から信頼され、協働して教育活動を行う教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

落ち着いた学習環境の下で、活発に教育活動が行われている。明るく素直な生徒が多く、学校行事や部活動等に熱心に取り組んでいる。

教員は、互いに協働する意識が高く、意欲的に職務に取り組んでいる。保護者や地域は、学校の教育活動や行事等の取組に大変協力的である。

【前年度の成果と課題】

〈成果〉・学習コンテストや各種検定の実施により学習意欲の向上が図られた。・いじめの未然防止を図るとともに、早期発見、早期解決を心がけた。
・ＣＳやＰＴＡ、そして生徒共に校門前での朝の挨拶運動に取り組んだ。
・ＣＳ運営委員の方々が積極的に学校運営のサポートしていただき、ＰＴＡと共に生徒のための活動の場を設定してくれた。

〈課題〉・「分かる授業」を目指し、常に指導内容や授業形態の改善に努める。　・きめ細かな不登校対応を推進する。
・ＣＳとして、地域の教育力を生かした教育活動や地域に根付いた学校づくりに努める。

４　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	自己肯定感の育成	○	○	○	○	○
3	保護者・地域との積極的な連携によるコミュニティ・スクール活動の推進	○	○	○	○	○

５　令和５年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

Ａ　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
学習意欲の向上と 確かな学力の定着	区学力調査各教科　65%以上 定着度確認テストで 正答率　各教科　65%以上	区学力調査平均　60.3% 定着度確認テスト 国語 72.7%　数学 51.0% 英語 47.5%	区学力調査の通過率は国語・数学の平均が共に 65.4%で目標を超えていたが、英語では到達できなかった。定着度確認テストは国語では昨年比べ上昇し、目標を達成できたが、残り２教科で達成できなかった。数学、英語は昨年度に比べほぼ横這いである。生徒の課題を分析し、次年度へと繋げていく。	△

Ｂ 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	「分かる授業」の実践	全教員	年間	「足立スタンダード」を活用した授業を行う。 授業力向上を目指し、副校長を中心に組織的に OJT に取り組む。 教師だけでなく生徒のタブレットやＡＩドリルの活用を図り、わかりやすい授業の実践を進める。	生徒の授業評価（わかりやすさ・ICT 活用） 教員同士による授業観察において授業評価	年度末 生徒アンケート肯定的回答 共に 95%以上 教員の授業評価において「わかりやすい」内容の記述	肯定的回答 わかりやすさ ９教科平均 93.7% 学習用タブレット活用 ９教科平均 80.1%	・肯定的回答が 99.5%から 82.8%と教科によりバラツキがあるが平均は目標に少し及ばなかった。生徒の学習用タブレットの活用が昨年末よりやや下がってしまった。今後も組織的に授業改善に努め、一人一台端末やＡＩドリルの活用を図りながら分かる授業の実践に取り組んでいく。 ７月に授業公開週間を設定し、良かった点を記入し、授業者に渡した。	○
2 継続	朝読書	全生徒	毎週 月～金 （除朝礼時） 始業前 15 分	読書習慣をつけ読解力の向上を図るため、読書を行う。	生徒生活アンケート	1 か月読書 0 冊回答 30%以下	生徒アンケート 33.6%	残念ながら目標を達成することができなかった。しかし、昨年末のアンケート結果と比較すると 5.9 ポイント減少した。学校図書館司書として協力して図書室の活用をさらに図っていく。	△

3 継続	放課後補充教室 自主学習教室	抽出生徒 国語 数学 英語 希望生徒 全教科	毎週月火、木 放課後 60 分 毎週金 放課後 90 分	学習コンテストや各教科担任が作成した確認テスト等を行い、不合格生徒に放課後 ICT 機器などを使用して補習を行う。 自主学習教室では、教員や学生ボランティアの指導とともに生徒同士の教え合い学習を導入する。 学習教室日以外は図書室での学習できる環境を整え、自学自習の促進を図る。	区調査問題を活用した、定着度確認テスト 自主学習教室参加生徒数	定着度確認テストで、 正答率各教科 65%以上 参加生徒数 前年度増 290 名以上	１年生　国語 76.3% 数学 53.9% 英語 50.9% ２年生　国語 69.2% 数学 48.0% 英語 44.1% 延べ参加生徒数 172 名	・目標を達成できたのは国語のみで、次年度に向けて基礎的な内容の定着を一層図っていく必要がある。 ・自主学習教室は 16 名が登録し活用している。延べ参加人数は目標を達成できなかったが大学生による学習ボランティアの活用も図られてきているので今後も継続していく。	△
4 継続	学習 コンテスト	全生徒 国語 社会 数学 理科 英語	年４回 ５月 国語 ９月 英語 12 月 社理 １月 数学	全校で集中的に取り組む。朝補習でプリント学習に取り組ませるなど事前学習を充実させる。 80 点以上を合格とし、不合格生徒には再テストや放課後補習を行い、理解が不十分な内容の補充を行う。	コンテスト結果	各コンテストにおいて 合格生徒 （80 点以上） 80%以上 優秀賞 （90 点以上） 60%以上 満点賞 30%以上	各コンテスト平均 合格生徒　63.3% 優秀賞　53.1% 満点賞　27.2%	・コンテストによって、バラツキが見られた。目標をクリアするには至らなかった。 ・次年度も合格点に達しなかった生徒には、補充教室等で指導を継続していく。 ・事前事後指導を、より主体的に取り組ませるよう工夫し、傾向や結果を分析し、授業で活用していく。	△
5 継続	サマースクール	希望生徒 数学 英語等	夏休み 期間中 ６日間 各日 50 分×３	教科担任を中心に全教員で、基礎基本の定着を図り、理解が不十分な内容の補充、克服を行う。 必要に応じて３年次に５教科の授業を行い、入試に向けたコースも開設する。	延べ参加 生徒数	参加生徒数 前年度増 （779 名以上）	述べ参加人数 3 年　163 名 2 年　144 名 1 年　204 名 計　606 名	各学年ともに 3 教科で実施した。目標は達成できなかったが、自主学習教室を開設し、延べ 95 名の生徒が来校して自主的に学習に取り組んだ。次年度も同様の取り組みを行っていく。	○

6 継続	土曜スクール	全学年 希望生徒 国語 数学 英語	年９回 (各検定前)	漢字、数学、英語検定において、目標とする級への合格を目指す。特に英検では3年生向けの区の施策を活用して受検者数の増加を目指す。 教科担任、ＣＳやＰＴＡで協働して市販の問題集等を利用し模擬試験を行い、学力の向上を図る。	漢字検定 数学検定 英語検定	検定合格率 75%以上 参加生徒数 前年度増 56名以上	検定合格率 漢字検定 52.6% 数学検定 46.6% 英語検定 56.4% 参加生徒数（9回） 56名→ 81名	・検定は年３回実施を目標として計画したが募集人数が規定に達せず１回できないときもあった。の土曜ｽｸｰﾙは年９回実施できた。今年度は区の施策により、３年生の英検受験者が増え、土曜スクールの参加者が増えた。今後も同様に取り組んでいく。	○
7 継続	小中連携活動の推進	全教員 希望生徒	年間 夏季休業中	研究授業を主体とした指導法改善のための研修会を行う。 小学校のサマースクールに、生徒を教師役として派遣する。	合同研修会 生徒派遣数	研修会開催 ７回以上 生徒派遣数 20名以上	研究授業を小中でそれぞれ1回ずつ実施 サマースクール派遣 15名の応募があり、5日間で１日６名の生徒を派遣し、延べ30名の生徒を派遣した。	・予定していた連携研修をつつがなく実施することができた。次年度も同様に計画し、実施できる範囲で行っていく。 ・多くの生徒の応募があり、1日で派遣する生徒数を限定して実施した。今後は小学校とうまく連携を取り、多くの生徒の派遣を実施していきたい。	○
8 継続	学びの環境整備	全教員	年間	特別支援教育コーディネーターを中心として、すべての生徒にとって「分かる」を実感できる教室環境の整備 また、生徒アンケートを通して生徒の自発的な活動を促す。	教室環境チェックシート並びに生徒アンケート	チェック年３回 チェックシート ９５%クリア アンケート肯定的回答８０%	チェックシート 第1回　98.0% 第2回　86.0% 第3回　90.0% 平均　91.3% 生徒アンケート 全項目(7項目)の 肯定的回答　95.0%	目標としていた数値はおおむね達成することができた。 生徒へのアンケートは次年度より委員会へと移管して、生徒による自主的な活動としたい。	◎

重点的な取組事項－２	自己肯定感の育成

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
何事にも主体的、積極的に取り組む生徒の育成	生徒の学校生活評価で、取組項目の肯定的回答を95%以上にする。	生徒の学校生活での満足度は95.3%であった。目標を達成することができた。	次年度も継続して成果が実感できる取組を増やしていく。	◎

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
ボランティア活動の充実	生徒の学校生活評価「ボランティア活動に積極的に参加している」項目の肯定的回答を90%以上にする。	・「親子ボランティア」(名称変更予定)を中心に、ボランティア活動へ積極的に取り組ませる。 ・事前指導や講演会により意識を高めさせ、ボランティアリーダーを育成する。 ・個人による自主的なボランティア活動を推進する。	「５ＶＴ」を中心に地域の行事などのボランティアに参加する生徒が増えた。「ボランティア活動に積極的に参加している」項目の肯定的回答が 73.5%と目標を達成することはできなかったが、昨年に比べ18.2ポイント増加した。	今年度は多くの学年で参加生徒が増えた。次年度も地域等のボランティア活動の取り組み参加への呼びかけを行い、さらなる評価につなげていく。	○
挨拶運動の充実	生徒の学校生活評価「自分から挨拶をしている」項目の肯定的回答を90%以上にする。	・生徒会・学年委員を中心に、ほぼ毎日、木は保護者、毎月15日は地域が参加して、朝の挨拶運動を実施する。 ・小中合同の朝の挨拶運動を実施する。	保護者や地域の方が参加してのあいさつ運動も定期的に実施することができた。そして、今年度も小中連携によるあいさつ運動を実施できた。「自分から挨拶をしている」という肯定的な回答は 87.3%と目標は達成できなかったが、徐々に増加している。	目標が達成できるように、今後も積極的に挨拶ができる環境を保護者・地域の方の力を借りながら教職員・生徒とともに作り上げていく。	○
きめ細かな不登校対応の推進	30日以上欠席生徒数を前年度より減らす。	・SCやSSW、関係諸機関との連携を積極的に図り、全教員で情報を共有しながら組織的に対応する。	今年度は欠席 30 日以上の生徒数が26名と昨年度より減少した。また、学校に全く来られない生徒は9名であるが、担任による家庭訪問や関係機関との連携によって学校との接点が全くない生徒はおらず、この関係性は今後も続けていく。	今後も、教員が生徒と丁寧に関わり合い、家庭との連携を密に行っていく。 関係諸機関や今年度からのＮＰＯ法人との連携事業も積極的に活用を図っていく。	○

生徒の実態把握	「こころの声」を毎月実施する。	・「こころの声」で生徒の変容を把握する。学年の教員を中心に全教員で供覧し、情報の共有化を図る。	「こころの声」は毎月朝礼後に実施した。全教員で供覧し、情報の共有化を図った。	「いじめ０」を目指して、工夫を重ねながら今後も取組を継続する。	○
「いじめ０」運動の推進	生徒による「いじめ防止のキャンペーン」を実施する。	・生徒会本部や専門委員会を主体に、いじめ防止について取り組ませ、いじめ０を目指す。	生徒会による給食時の動画での呼びかけを行った。	生徒の実態を把握し、生徒との意思疎通を図るため、今後も活用していく。	△

重点的な取組事項－３	保護者・地域との積極的な連携によるコミュニティ・スクール活動の推進

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・地域からより一層信頼される学校づくり	保護者・地域の学校評価で、「学校への満足度」の肯定的回答を90%以上にする。	学校評価での「学校への満足度」の肯定的回答は、93.5%であった。	今後も開かれたそして信頼される学校づくりに努める。	◎

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域でのボランティア活動の活性化	地域ボランティアへの延べ参加数を 100 名以上とする。	・地域行事や避難所運営訓練等へのボランティア生徒を積極的に募り、地域との交流を図らせる。 ・地域の住人の一人として自覚させ、自分の役割について考えさせる。	地域行事や避難所運営訓練など実施していただくことができ、ボランティアとして延べ 175 名の生徒が参加することができた。	今後も、地域と連携し、様々な行事にボランティアとして参加し、生徒の自己有用感の向上を図っていく。	◎

意見交換会の実施	ＣＳ運営委員と生徒及び教員との意見交換会を各１回実施する。	・生徒や教員の声を地域に直接届けるとともに、地域から学校への要望を直接聞く会を実施する。 ・課題を共有しながら今後の教育活動を考えることにより、連携を深める。	意見交換会は教職員で１回、生徒会役員と１回実施することができた。ここで聞いた意見をCS会議で話し合い、課題を共有することができた。 お互いに意見を出し合うことで、連携が深まった。	出された意見を十分に検討し、学校環境整備など実現できるところは今後の教育活動に取り入れていく。	△
ＣＳ「協力し隊」活動の推進	・地域参観日を月２回以上実施する。 ・教育活動支援を発展させる。	・地域による授業参観の取組を継続する。課題を共有し、教育活動に生かしていく。 ・書写指導補助等、教科内容を踏まえた取組の充実を図る。	地域参観日８回予定し、６回実施することができた。地域の方に学校を知っていただく機会がもてて良かった。 残念ながら地域の方の力を授業に生かすことはできなかった。	地域の方と連携を密に図りながらの教育活動支援の発展が今後の課題である。	○

６　まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１　学力向上

【課題】

○英語においては基本的な文法のルールや英単語の定着が低いと考えられ、語順の並び替えや英作文に課題がある。

●数学において既習事項の定着率が低く、記述式などの応用的な問題で解答できない生徒が多く見受けられる。

◎漢字等の基礎的事項での取りこぼしが見受けられる。作文問題での解答ができておらず、文章作成力も低いと考えられる。

【対策】

○自作のワークシートだけでなく、ＡＩドリルを使い、正しい語順への並べ替えなど簡単に取り組めるところから始め、自身の意見での英作文作成の時間を確保する。英単語を口に出すようにしてリズム等での定着から英作文作成へと進めていく。

○補習や家庭学習等ではできるだけＡＩドリル等を活用し、生徒のレベルに応じた課題を設定し、復習の機会を多く図る。

○単元ごとの単語テストやスペリングコンテストを実施し、定着度に応じた課題を設定していく。

●授業内での帯活動でＡＩドリルの活用し、既習事項の定着を図る。

●課題提供をプリントだけではなく、ＡＩドリルも併用し、宿題等で生徒一人一人に合った問題演習に取り組ませ、学習意欲の向上を図る。

●生徒同士の教え合い活動を通して基礎的内容の定着を図り、苦手意識を減少させる。

◎教科書以外の文章に触れる機会である朝読書の取組は継続する。また、学級文庫等の充実も図書館担当を中心に行っていく。

◎授業内でミニ作文作成の機会を設定し、書くことへの抵抗感を減少させる。

◎漢字や文法等、定期的に小テストを実施し、その結果に応じて復習や補習を行い、基礎的知識の定着を図る。

重点的な取組事項－２　自己肯定感の育成

・「本校の特色はボランティア活動と挨拶」と答える生徒が多く、実際、ボランティア活動は活発で、多くの生徒から気持ちのよい挨拶が返ってくる。しかし、自ら積極的にという点で課題が残る。今後、自ら積極的に取り組む意識を育てるとともに、完全実施とはいかなかった地域でのボランティア活動の募集等もポスター等を作成し、積極的に行い、達成感や成就感を味わわせるための工夫に取り組む。

・不登校対応については、関係諸機関との連携や別室登校等、個に応じた対応で一定の効果があった。今後も、生徒と丁寧に関わり合い、家庭との連携を密に行う。

・生徒による「いじめ防止キャンペーン」を中心にいじめの未然防止を図るとともに、早期発見、早期解決を心がけた。また、「ライフ」や「こころの声」を活用して生徒の実態把握に努め、教員間で生徒理解と情報の共有化を図ることができた。

重点的な取組事項－３　保護者・地域との積極的な連携によるコミュニティ・スクール活動の推進

・コロナ禍の中で実施できる範囲でのＣＳの活動を行うことができた。3年ぶりとなる「ハピフェス」も地域・保護者の皆様のお力をお借りすことで実施することができた、ぜひ次年度はできるだけ多くの取組を模索しながら、教育活動支援を発展させていく。
・土曜スクールをほぼ実施できたのはＣＳ・ＰＴＡの方々のご協力の賜物であります。今後はもっと生徒への周知を図り参加生徒を増やしていく。
・学校でのボランティア活動へ参加した生徒は、積極的に取り組むことができた。参加する意義を理解させ、さらには地域のボランティア情報も積極的に周知し、参加生徒を増やしていく。

（２）保護者や地域へのメッセージ

保護者や地域の皆様には、日頃から本校へ様々なご尽力をいただき、心から感謝いたしております。今年度の学校行事では少人数ではありますが、生徒の活躍をご覧いただく機会が設けられました。そして、生徒への励ましの言葉等をいただき、とても良かったです。次年度はさらに多くの方に学校生活をご覧いただけるよう願っております。

本校は、これまでの良き伝統を継承するとともに、教育活動をさらに充実、発展させ、新しい伝統を創造していきたいと日々取り組んでいます。

具体的には、「君たち一人一人が主人公」のスローガンのもと、全教職員が一丸となって連携、協力し、生徒が主体的に活躍する場面を意図的に設ける等、「一人一人の生徒を大切にし、きめ細やかな温かみのある指導」を行うことにより、生徒全員が「第五中学校に通ってよかった」、保護者の皆様が「第五中学校に通わせてよかった」と実感できる学校づくりに励んでいます。

コミュニティ・スクールとしての指定も受けており、地域との連携をさらに強化し、地域力を活用した教育活動の活性化を図っていきたいと考えています。

生徒の健全育成のためには、保護者・地域・学校の連携が何より大切だと考えています。今後とも、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（３）その他（学校教育活動全般について）

・今年度掲げた重点的な取組事項について、実施できたものと急遽中止となってしまったものがありました。しかし、出来る範囲の中で出来ることを教職員・生徒と一緒になって実施することができた。
・学習指導では、「分かる授業」の実践を目指し、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われているが、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、日々授業改善に取り組むことが必要である。各学力調査や定期考査等の分析を行うことで生徒のつまずきを確認し、補充教室や学習コンテスト、サマースクール、家庭学習の取組等で学力の向上を継続して図っていく。一人１台端末の活用を図り、紙媒体等での指導に加え、ＡＩドリル等の活用を図り、アナログとデジタルを融合させて基礎学力の定着を継続して図っていく。
・生活指導では、教員間での共通理解、同一歩調による、力に頼らない指導の徹底を図るとともに、生徒の良さを認め、ボランティア活動や挨拶運動を推進して生徒の活躍の場を設け、自己肯定感を高める取組を行っている。学校行事や生徒会活動、部活動等で、生徒は意欲的に活動していた。ぜひ、地域等の行事が多く開催され、そこに生徒が参加できるようになり、地域の役に立てる生徒を増やして、生徒の自己有用感も向上させていきたい。また、不登校生徒を減らすことも課題である。
・次年度も、今年度の成果と課題を基に、教育活動の改善を組織的に行っていく。今後も教員の指導力向上を図り、小中連携を推進し、保護者・地域・学校が一体となり、生徒一人一人の個性を伸ばしながら、学力向上や自己肯定感の育成を進めていく。